リマ日本人学校から

リマ日本人学校・浜家　功
2009年7月22日

南米の玄関・800万人の大都市

昨年度より、リマ日本人学校に派遣された浜家功です。
この１年、日本での生活と違うところ・日本の学校と違うところをたくさん感じました。それらの刺激が今後の教育活動に生かされるのではと思っています
少しずつですが、レポートとしてお知らせいたします。

ペルーの首都リマは、日本のほぼ反対側に位置しています。日本から飛行機で約20時間近くかかります。今リマは経済発展がめざましく、街のあちこちで大きなビルやマンションを建てる工事が行われています。世界不況の中、経済が好調な国の5つに入るとさえ言われています。

都心に出れば日本と変わらないような高級デパートやカフェ、レストランが軒を連ね、たいへんおしゃれな街です。公園や街路樹の整備がすばらしく、緑をうまく取り入れています。

ペルーにもいろいろな問題はあります。ほかの南米諸国と同じように貧富の差が大きいということです。リマ中心部を離れれば、まだまだ舗装されていない道はありますし、小さな平屋の家に住んでいる人もたくさんいます。アンデス山脈ふもとの高地や、アマゾン川流域にすんでいる人たちは、昔ながらの生活をしています。「お金持ちの人はものすごくお金持ちで、貧しい人はとても貧しい」ということに、一番驚きました。

では、ペルーの人たちは楽しく生活していないのでしょうか。いえ、「ペルーの人たちは、みな陽気で幸せに暮らしている」ということを、私は一番言いたいのです。休日には友人たちとサッカーを楽しみ、パーティー好きで踊りが上手、いつも冗談ばかり言っています。派遣前の研修で「自殺率が世界で2番目に少ない」と聞きました。ペルー派遣はたいへん不安でしたが、もしかしたら「とてもいい国かもしれない」と思いました。来てみると、皆あたたかく親切に私たち家族を受け入れてくれました。

ペルーでの挨拶はベソ（ほほとほほを合わせる）と握手。初めての人でも、前から友達だったように肩を抱きます。家族をとても大切にして、何歳になっても家族みんな仲良しです。

マチュピチュの遺跡やナスカの地上絵など世界的にも有名な観光地もたくさんあります。リマの市街地も、建造物がすばらしく世界遺産にもなっています。

リマ日本人学校の紹介

リマ日本人学校は、リマ市内の住宅地「スルコ地区」にあります。小学部・中学部合わせて43名の児童・生徒が学んでいます。児童・生徒のほとんどはスクールバスで登校しています。リマ中心部から少し離れているため、40分くらいかけて登校する子もいます。日本の学校と同じ教育課程で学習していますが、日本の学校にはないような行事もあります。少人数ですが、行事は大掛かりです。子どもたちもたくさんの出番で活躍しています。

日秘友好運動会

今年日本人移住110周年を迎えるペルーには、たくさんの日系人の方がいます。ペルー日系人協会の総合運動施設で、毎年4月盛大な運動会が開かれます。子どもから大人まで参加し、陸上競技やダンス、ゲームを楽しみます。当日は、たくさんの屋台も出てたいへんにぎやかです。リマ市及び近郊にある4つの日系の学校も参加します。

エルボスケ宿泊学習

小学校1年生から中学校3年生までの全校生徒で行く1泊2日の宿泊学習です。8月下旬にリマ郊外にあるリゾート施設に行きます。カレーライス作り、キャンプファイヤーでの出し物、ウォークラリーを縦割り班で協力して行います。キャンプファイヤーで、南十字星を見ながら炎を囲む時、リマ日本人学校の仲の良さをしみじみと感じました。

40周年記念式典

リマ日本人学校ができて40周年の昨年、在ペルー日本国大使をはじめたくさんの方を招いて、盛大にお祝いしました。ペルー在住の野口画伯の絵画寄贈、海外で新聞記者をしておられる卒業生の方の記念講演がありました。この日のために半年かけて作り上げた創作ダンス「リマソルわっしょい」を披露しました。「リマソルわっしょい」は、リマ日本人学校の歴史を表現したもので、全校児童生徒が相談しながら作り上げた大作です。

給食デー

お昼ご飯は、毎日お弁当です。年に2回だけ給食があります。お母さんたちが朝から家庭科室で給食を作ってくれます。カレーライスや親子丼など子どもたちの好きなメニューで、何日も前からみんな楽しみにしています。写真の給食デーは、6月にあったときのものです。小型パン・ミネストローネ・ツナサラダ・焼きりんごでした。給食デーでは、みんなおかわりしてお腹いっぱい食べるので、いつも5時間目が苦しそうです。